

逗子の景観まちづくり

瓦版 第十七号

平成二十五年八月三十日
 発行 景観フォトコンテスト実行委員会
 編集 逗子市環境都市部まちづくり課
 協力 NPO法人逗子の文化をつなぎ広め深める会
 募集 逗子の景観スケッチや六百字以内の景観に関するコラム等を募集しています。

二四九・八六八六
 逗子市逗子五丁目二番十六号
 「逗子市まちづくり課 瓦版係」
 電話 〇四六・八七三・一一一一
 ファックス 〇四六・八七三・四五二〇
machi@city.zushi.kanagawa.jp

「山の根の谷戸と熊野神社」

逗子八景の一つは「山の根の夜雨」であるが、夜の雨はどこにでも降る訳で、これが示す通り山の根の景観は至って地味で日常的なものである。しかしそれは又、大変魅力的である。文字通り山裾に絡まる三つの谷戸から成る山の根は狭い地域ながら地形はかなり複雑で、直接山に接している為、緑豊かで山の稜線が美しい。



「山の根熊野神社」

絵 愛敬子

夏は木々を抜けて吹き寄せる海からの風と木陰のお陰で涼しく、冬は北に山を背負う地形が日溜りを作り暖かい。駅や商店街に近いのに静かで、家に居ると山と庭の樹木に囲まれて森の中に居るようで、住むには理想的と言って良いであろう。

この平和な里の中央に鎮座するのが地域の氏神熊野神社である。最初の鳥居をくぐり坂道を上って行くと第二の鳥居が有り、その先の階段を登り切ると、三方を山裾に囲まれた境内で、質素な社殿がひっそりと立って居る。

樹齢数百年の巨木が陽光をさえぎり厳かな雰囲気醸し出している。神社の故事来歴は定かでは無い様だが、熊野水軍との関係から創建は鎌倉時代初期に遡ると見られる。

かつては横須賀線の線路の向側に第一の鳥居があり桜並木の長い参道があった由。

社の裏手に横穴式古墳群が発見されたが、七、八世紀のものとのこと。更に縄文人の住居跡とも言われる。奈良時代の古東海道は山の根辺りを通って居たと推測される。ここは歴史的には案外重要な場所であったのかも知れない。

文 菅田 栄一



「熊野神社より逗子市街を望む」

絵 小久保幸彦

逗子ステキ発見!! 景観フォトコンテスト

第二期 期間賞の発表です!!

ご応募いただいた161作品の中から、選ばれた2作品はこちら♪♪期間賞は実行委員会による投票と、写真の専門家である特別選考委員によって選ばれました。選考委員からのコメントもご覧ください♪第2期は、1期とは作風ガラッと変わり、様々な写真が集まったこと大変嬉しく感じています。これからの季節は祭事が多く、賑わう人々とその背景や町中の生活風景が数多く集まることを期待しています。



第二期 期間賞「花壇のあるバス停」福岡 義夫
バスを待つ人、散歩する人、登下校の生徒達に常にきれいな花を見せているバス停の花壇。地域に密着したボランティア活動の一端を撮影した。



第二期 期間賞「桜+SUP=現代の花見」杉浦 正典
逗子海岸が満潮時になると田越川の水位も上がり、SUPやカヤックがノンビリと遡上して来ます。桜だけではつまらないので、見ていたらちょうどSUPの方が来たのでパチリ！桜にピントを合わせたんですが、いかがでしょう？

応募のあった全161作品の中から実行委員会の総意によって選ばれた作品です。

ボランティアで管理されている花壇や子供達が安心して歩ける通学路。当たり前ですが実は地域住民の努力によって維持されていることに気付かされる景観写真のあり方に一石を投じる作品です。これこそが守っていききたいステキな景観ではないでしょうか。

景観フォトコンテスト実行委員会

いつも見なれている田越川に掛かる赤い橋と桜。これだけならなんの変哲もない風景。そこへ一人の若者がSUPによって川を上ってくる。この人物の配置とシャッターチャンスによって見事な構図となって生きてきた。

川の空間を使って奥行も表現されているし、切り取り方も良いと思います。桜と春の季節感と人物の添景が主役となりおだやかな逗子と春の景観を見事に表現していると思います。

なお他にも心に残った素晴らしい作品が多々あったことを明記しておきます。

特別審査委員 第2回写真講座講師
大竹 清（有限会社 大竹カメラ代表）

逗子ステキ発見! 景観フォトコンテスト スポンサー紹介



印鑑や名刺を始め、Tシャツプリントやシールも作成しています! どうぞご利用ください♪

TEL: 046-870-6682 FAX: 046-870-6684 E-mail: 046-870-6682@telno.ne.jp

OPEN: 9:00~19:00 (SAT 9:00~17:00) HP: <http://www.hanko21-zushi.com>